
脳神経内科

主任部長 細見 直永

当科の診療体制

2023年は5月より新型コロナウイルスが「5類」に移行され、「アフターコロナ」へ転換となった。これにより、当科の入院患者数は下げ止まり横ばいとなりました。特にけいれん・てんかんなどにより入院となった患者数は97例と増加しました。

常勤のスタッフとしては、細見直永、山崎正博、葛目大輔、森本優子、堤聡各医師のほか、専門医資格を持つ金子恵子医師がパートタイム勤務で外来診療の一部を担ってくれました。ここ数年、診断・治療面で大きく変わってきた重症筋無力症や多発性硬化症など、神経免疫異常が発症に関与する神経難病については、神経内科専門医資格を持つリウマチ・膠原病内科の吉田剛医師に神経免疫部門を担ってもらい、共同した診療体制を構築しました。森本優子医師が日本臨床神経生理学会専門医試験に合格し、同じく専門医である吉田剛医師と共に、専門医資格を持って神経伝導速度検査や針筋電図検査、筋肉や末梢神経のエコー検査など神経電気生理検査を行いました。2022年4月から神経内科専門医資格取得のための研修を行っていた堤聡医師が2023年10月に専門医試験に合格し、12月末にて当科での研修を終了し地元の国立病院機構徳島病院に戻りました。

これら少ないスタッフの中で、“高知県の神経疾患の最後の砦”となるべく努力を継続しています。また神経内科専門医が少なく、偏在している高知県の特殊性から、慢性期の患者は開業医の先生方に継続加療をお願いし、年に数回は当院で診察する診療体制をとっています。

近年、遺伝子解析や各種抗体検査の進歩には目を見張るものがあり、他施設との連携がますます重要となってきており、当科も大学や各種研究機関・センターと人的ネットワークを拡げて活用しています。

診療実績

① 入院患者

2023年には入院患者数は427名(←432名)でした。大きなカテゴリーで分類すると脳血管障害130名(←177名)、てんかん・ケイレン・など機能性神経疾患97名(←86名)、神経変性疾患53名(←53名)、神経感染症13名(←14名)、神経免疫疾患44名(←35名)などでした。さらに、他科入院中に発見された脳梗塞に対する治療方針などに関して相談を受け共診しました(33名(←28名))。

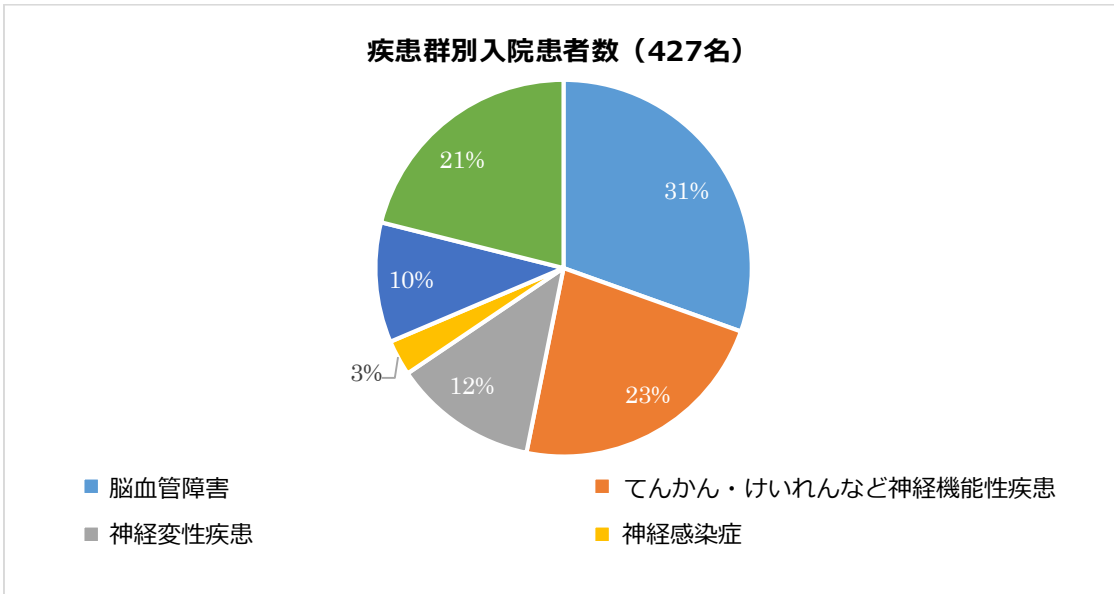


図 1. 疾患群別入院患者数

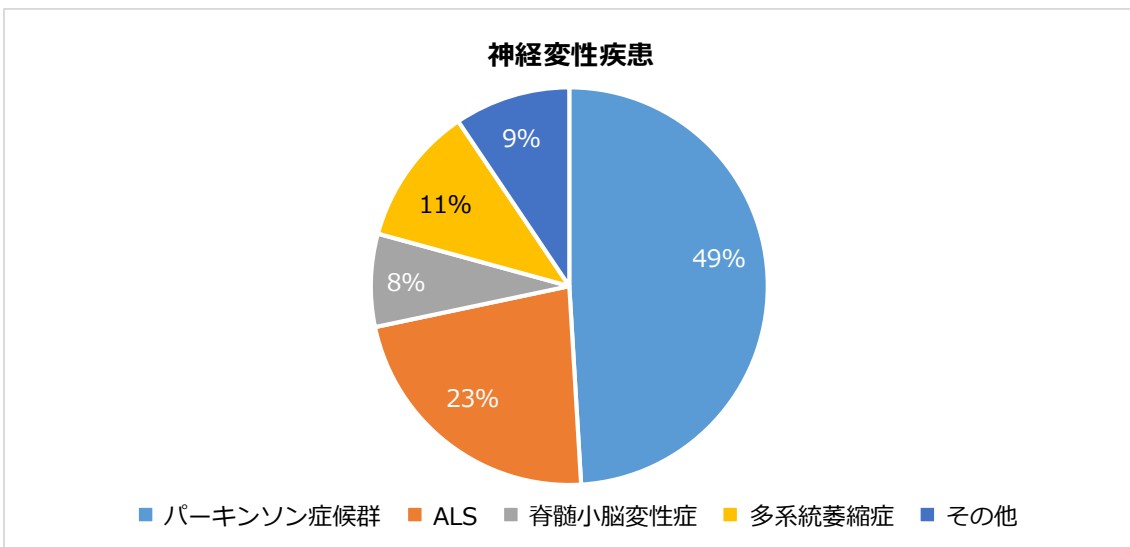


図 2. 神経変性疾患

② 紹介患者

当科に紹介いただいた患者は、286名（前年比 1.31 倍）であった。国立病院機構高知病院、細木病院、高知高須病院、にしの内科クリニック循環器・心臓内科、もみのき病院、内田脳神経外科、永井病院、国吉病院、赤岡医院、高知脳神経外科病院、くぼかわ病院、南国中央病院、みなみの風診療所、高知赤十字病院、坂本内科、愛宕病院、佐川町立高北国民健康保険病院、鈴木内科、えだしげ整形外科、みちなか整形外科クリニック、菜の花診療所、須崎くろしお病院、町田病院、土佐病院、うぐるす内科クリニック、高知大学医学部附属病院、大野内科、とんぼクリニック、依光内科クリニック、川村病院、おがわハートクリニック、くすのせクリニック、よりみつ内科消化器科内科、山下脳神経外科などから多くのご紹介をいただいております（2023 年実績：紹介患者の多い順、3 例以上）。

これからの脳神経疾患診療について

神経疾患の特徴は、その後遺症状により ADL が低下することです。特に脳梗塞は t-PA 治療や血栓回収などにより劇的な改善を示す患者も多くなりました。そのためには早期受診を勧める啓発運動が重要になります。また、てんかん患者では新規抗てんかん薬が増えて発作抑制に有用になっています。難病の神経変性疾患では診断や治療法が進歩しています。どの疾患も後遺症を減らすには早期診断・早期加療が重要であり、また脳卒中は予防医療が急性期治療に勝ると言われており、これをさらに向上させるためにも他医療機関との連携強化を図ります。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
高齢初発非痙攣性重積発作に対しラコサミド投与し洞性徐脈を生じた1例.	三浦格、葛目大輔、堤聡、森本優子、山崎正博、細見直永.	第34回日本老年医学会四国地方会.	2023年2月 ;高知
Echocardiographic variables for predicting all-cause death in non-valvular atrial fibrillation patients.	細見直永、中岡洋子、窪川涉一、川井和哉	第87回日本循環器学会学術集会	2023年3月 ;福岡
Body lateropulsion (BL) を呈した尾側延髄外側梗塞の一例.	葛目大輔、森本優子、堤聡、山崎正博、細見直永.	第48回日本脳卒中学会学術集会.	2023年3月 ;横浜
非弁膜症性心房細動患者のイベント発症に影響する因子- Chikamori AF registry -	細見直永.	第48回日本脳卒中学会学術集会.	2023年3月 ;横浜
パーキンソン病における嚥下障害と栄養指標との関連性.	葛目大輔、森本優子、堤聡、細見直永、山崎正博.	第64回日本神経学会学術集会.	2023年5月 ;千葉
高齢者 Wernicke 脳症の特徴.	葛目大輔、森本優子、堤聡、細見直永、山崎正博	第65回日本老年医学会学術集会.	2023年6月 ;横浜
舌圧、Peak Expiratory Flow を用いた高齢者肺炎予測因子の検討	中森正博、上村鉄兵、内藤裕之、青木志郎、祢津智久、今村栄次、益田武、服部登、丸山博文、細見直永	第65回日本老年医学会学術集会.	2023年6月 ;横浜
Wernicke 脳症における頭部 MRI 病変の検討.	葛目大輔、森本優子、堤聡、山崎正博、細見直永.	第113回日本神経学会中国・四国地方会.	2023年6月 ;山口
ペムプロリスマブ投与後に発症し、ステロイドが奏功した脱髄性ニューロパチーの一例	森本優子、葛目大輔、吉田剛、堤聡、山崎正博、細見直永	第113回日本神経学会中国・四国地方会.	2023年6月 ;山口
当院で経験したアシクロビル脳症の特徴.	葛目大輔、森本優子、堤聡、山崎正博、細見直永.	第76回高知県医師会学会.	2023年8月 ;高知
脳梗塞を発症した AH アミロイドシスの1例.	葛目大輔、森本優子、堤聡、山崎正博、細見直永.	第10回日本アミロイドシス学会学術集会.	2023年9月 ;高知
リステリア髄膜炎における季節性について.	葛目大輔、森本優子、堤聡、山崎正博、細見直永.	第27回日本神経感染症学会学術集会.	2023年10月 ;横浜
リステリア髄膜炎における季節性について.	葛目大輔、森本優子、堤聡、山崎正博、細見直永.	第114回日本神経学会中国・四国地方会.	2023年12月 ;松山

著作活動

著書(邦文)

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Dysarthria 診療の手引き 2023年版.	日本音声言語医学会 言語・発達委員会 西澤典子、荻安誠、中森正博、細見直永、椎名英貴、福永真哉、中谷謙、益田慎、三枝英人、草野修輔、田中康博、南都智紀	日本音声言語医学会.	2023 in press.

総説(邦文)

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
脳神経疾患合併腎障害の診療.	内藤裕之、細見直永.	日本内科学会.	2023 in press.
Dysarthria の翻訳名称について.	西澤典子、荻安誠、三枝英人、椎名英貴、田中康博、	音声言語医学.	64:24- 32, 2023

	中森正博、中谷謙、南都智紀、福永真哉、 <u>細見直永</u> 、益田慎、中川尚志。		
--	--	--	--

邦文原著

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
リステリア髄膜炎の診断予測因子の検討.	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	臨床神経.	2023;63: 1-6.
高齢発症細菌性髄膜炎の特徴.	葛目大輔, 森本優子, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	日老会誌.	2023;60: 79-82.
高齢発症 Edwardsiella tarda 敗血症の一例.	葛目大輔, 森本優子, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	日老会誌.	2023;60: 83-85.
抑うつによって Wernicke 脳症に至った高齢者の一例.	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	日老会誌.	2023;60: 86-88.
パレコウィルス A3 感染による成人流行性筋痛症の一例.	葛目大輔, 堤聡, 森本優子, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	脳神経内科.	2023;98: 890-892.
市中発症の成人細菌性髄膜炎において糖尿病は予後不良因子である.	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	高知県医師会学会雑誌.	2023;28: 127-131.
SIADH を合併した Guillain-Barré 症候群の一例.	葛目大輔, 大原桃子, 堤聡, 森本優子, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	脳神経内科.	2023;98: 890-892.
リステリア髄膜炎における季節性について.	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	脳神経内科.	2023;99: 274-276.
脾臓摘出後に難聴を伴った肺炎球菌性髄膜炎の一例.	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	脳神経内科.	2023;99: 247-250.
高齢発症 Wernicke 脳症の特徴	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	脳神経内科.	2023;99: 685-687.
Parkinson 病における嚥下障害と栄養指標.	葛目大輔, 森本優子, 堤聡, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	脳神経内科.	2023;99: 556-562.
正常な髄液細胞数を呈した Streptococcus dysgalactiae subspecies equisimilis 髄膜炎の一例	葛目大輔, 堤聡, 森本優子, 山崎正博, <u>細見直永</u> .	脳神経内科.	2023;99: 563-567.

英文原著

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Prospective observational study for the comparison of screening methods including tongue pressure and repetitive saliva swallowing with detailed videofluoroscopic swallowing study findings in acute stroke patients.	Nakamori M, Imamura E, Maetani Y, Yoshida M, Yoshikawa M, Nagasaki T, Masuda S, Kayashita J, Mizoue T, Wakabayashi S, Maruyama H, <u>Hosomi N</u> .	JAHA.	2023 in press.
Liver fibrosis index is associated with functional outcome among acute ischemic stroke patients.	Eto F, Nezu T, Aoki S, <u>Kuzume D</u> , <u>Hosomi N</u> , Maruyama H.	JSCVD.	2023 in press.
Generation of reporter mice for detecting the transcriptional activity of nuclear factor of activated T cells.	Yamasaki N, Miura K, Ogata S, Miura S, Uchimura A, Satoh Y, Toshishige M, <u>Hosomi N</u> , Gamboa M, Kitamura N, Kaminuma O.	Exp Anim.	2023;72: 454-459.
Peak Expiratory Flow, but not Tongue Pressure, Can Predict Pneumonia Development in Older	Kamimura T, Nakamori M, Naito H, Aoki S, Nezu T, Imamura E, Mizoue T,	Eur Geriatr Med.	2023; 14: 211-217.

Adults.	Wakabayashi S, Masuda T, Hattori N, Maruyama H, <u>Hosomi N.</u>		
---------	--	--	--
